

新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童生徒の学習保障 に向けたカリキュラム・マネジメントの取組事例について

【令和2年7月31日：第2弾】

本資料に掲載の事例は、「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における「学びの保障」の方向性等について（令和2年5月15日文部科学省初等中等教育局長通知）」に基づく実際の取組事例について文部科学省が、各地域や学校から収集した情報をもとにまとめたものです。



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

参 考 : 5 月 1 5 日 通 知 と の 関 係

	5月15日通知	通知で示された内容
主として教育課程の編成に関わること	2. 子供たちの「学びの保障」のための教育活動について	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程編成の基本的な考え方 (知・徳・体、資質・能力の3つの柱のバランスのとれた育成、指導方法の柔軟な見直し、それを支えるカリキュラム・マネジメントの充実) ○地域や家庭への説明
主として教育課程の実施、評価、改善に関わること	(1) 登校日の設定等による学校での指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○時間割編成の工夫 ○長期休業期間の短縮 ○土曜日の活用 ○学校行事の重点化や準備時間の短縮 ○最終学年を優先した学習活動
	(2) ①次年度以降を見通した教育課程編成	○令和3年度又は令和4年度までの教育課程を見通した検討
	(2) ②学校の授業における学習活動の重点化	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の授業において行う学習活動を、教師と児童生徒、児童生徒相互の関わり合いなど、学校でしか実施できない内容に重点化する。 ○内容の定着が不十分な児童生徒に対しては個別に指導を行う ○感染症対策を講じてもなお感染の可能性が高い学習活動については、各教科等の指導計画を見直す。
主として人的・物的体制の整備に関わること	2 (4) 教育委員会等による支援 3 取組実施に向けた人的・物的体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○設置者による各学校の教育活動に対する支援 ○2に示す方向性に基づく取組を進めていくため、人的・物的体制の整備・活用



➤ ポイント 各種計画の再編成や学習活動の重点化の考え方を整理。

E市教育委員会の例

◆ 年間指導計画・評価計画を再編成する際の基本的な考え方を提示

年間指導計画を再編成する際のポイント

- 計画の立案に際しては、各学年の各教科等において、各学校で設定した学校教育目標の実現ができるように留意する。
- 学校再開において柔軟な教育課程の編成を行うために、学習内容や、身に付ける資質・能力を適切に把握し、複数の指導事項を精選し、効率的かつ効果的に指導を行うための計画を立案する。

今後具体的に行う必要のあること

教科等毎に「年間指導計画作成のプロセス例」を提示

- ✓ 年間の授業時数見込みを算出し、全教科等の指導計画を見直す。
- ✓ 教科会や学年会などで、それぞれの教科等で扱わなければならない指導事項を確認する。
※指導時期を延期するもの、育成を目指す資質・能力が同様な単元等を見極める。
- ✓ 各教科等へ配当する授業時間を決める。
 - ・ 通常に配当する授業時間の割合をそのまま生かして配当
 - ・ 軽重をかけて配当（学校教育目標を基に、育成を目指す資質・能力に照らして配当）
- ✓ 2年間で螺旋的・反復的に指導する指導事項に係る教材について、育成を目指す資質・能力が身につけている場合は、上学年の教材・単元を精選することが考えられる。
- ✓ 特定の領域や指導事項、内容項目に偏ることがないようにする。

Point

- 学校教育目標の実現の観点から教育課程全体を見渡した諸計画の再編成を求めている。
- 教科会や学年会など既存の学校組織を生かした検討を求めている。
- 2学年間を見通した教材・単元の精選など学年間の関連を踏まえた検討を求めている。

◆ 関連する単元の統合や単元で扱う指導事項の精選等による年間を見通した計画改善案を提示

< 当初の年間指導計画（中学校）（抜粋） >

単元名	ねらい	時間数	評価の観点 (「-」は当該単元で評価しない)			
			関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	技能	知識・ 理解
単元1 ○○○○	□□	9時間	○	○	-	○
単元2 ●●●●	◎□	10時間	○	○	○	○
小単元1 △△△	□□	3時間	○	-	○	-
単元3 ×××	◆◆	10時間	○	○	-	○
小単元2 ◇◇◇◇	◆◇	2時間	○	○	○	○
単元4 ■■■■	◆◆	12時間	○	○	-	○

Point

- 各教科等で扱う内容とそれぞれの単元で用いる教材との関係を照らし合わせて、年間を見通した指導計画の見直しの考え方を整理して示している。
- 学習評価も視野に入れて年間指導計画を検討する必要性をpushして示している。

配当時間数の見直し

単元の統合

単元で扱う指導事項の精選、授業時間数の見直し

同様の資質・能力を目指す単元を統合し再構成

< 再編成後の年間指導計画（抜粋） >

単元名	ねらい	時間数	評価の観点 (「-」は当該単元で評価しない)			
			関心・ 意欲・ 態度	思考・ 判断・ 表現	技能	知識・ 理解
単元1 ○○○○ (小単元1の内容含む)	□□	10時間	○	○	-	○
単元2 ●●●●	◎□	8時間	○	○	-	○
単元3 ◎◎◎◎ (単元3,4の組合せ)	◆◆	15時間	○	○	-	○

観点別のバランスを確認

※ 再編成により「技能」の観点の評価が単元1～3ではできなくなってしまっているため、他の単元で扱う必要があります。このような確認が必要です。

➤ 各学校の参考として、教科等毎に年間指導計画の見直しのプロセス例を提示

□ 国語科

- ① 今後の授業時数を確認する
- ② 教科・学年の目標を確認し、指導事項を網羅したものとする。
- ③ 各領域の年間の配当時数を踏まえ、バランスよく時数を設定する。

□ 社会科

- ① 今後の授業時数を確認する
- ② 育成を目指す資質・能力を確認し、休業期間中に位置付けられていた単元を指導計画に位置付け直し、配当授業時数の調整をする。
- ③ その際、「学びの動画」やワークシートの活用などの工夫をする。

□ 算数・数学科

- ① 今後の授業時数を確認する。
- ② 育成を目指す資質・能力の確認を行う（既習事項の活用を図るトピック的な内容については、児童生徒の実態と照らし合わせて内容を精査し、必要に応じて単元の学習計画の中に入れ込む）。
- ③ 配当時数の調整をする。
（例）単元の終末の練習問題、発展問題等の時間を見直す。

□ 理科

- ① 今後の授業時数を確認する。
- ② 育成を目指す資質・能力、指導事項の確認を行う。
- ③ 感染防止策を講じつつ、限られた授業時数の中で資質・能力が育まれるように、学習の実施時期を入れ替えたり、教員が事前に撮影した動画等を適宜活用しながら、科学的に探究する（問題解決する）学習活動を行ったりする等の工夫を行う。

□ 生活科

- ① 今後の授業時数を確認する
- ② 9つの内容で育成を目指す資質・能力を確認する
- ③ 休業期間中に位置付けられていた単元について、より実態に応じたものとなるよう単元配列と配当時間数を2年間を見通して見直す。
- ④ 育成を目指す資質・能力を育むために最低限必要な時間を考えて、単元ごとの指導計画を見直す。

□ 外国語科

- ① 今後の授業時数を確認する。
- ② 育成を目指す資質・能力、指導事項を確認する。
- ③ 育成を目指す資質・能力が同様な単元や指導事項等を踏まえた上で、新たな単元の組合せ、単元の時数等を見直す。

□ 音楽科

- ① 今後の授業時数を確認する。
- ② 各学年で育成を目指す資質・能力を確認する。
- ③ 育成を目指す資質・能力が学年内に収まるように学習活動や使用する教材を精選する。
- ④ 各領域・分野については、互いの関連付けができるように授業展開を工夫する。
- ⑤ 授業再開から当面は、鑑賞領域と創作分野を中心に配置したり、時期を入れ替えたりする。

□ 図画工作科・美術科

- ① 今後の授業時数を確認する。
- ② 題材の領域、項目、指導事項及び育成を目指す資質・能力の確認をする。
- ③ 配当授業時数の調整をする。
同じ領域、項目指導事項に位置付く複数の題材においては、育成を目指す資質・能力に着目しながら実施する題材を精選する。

□ 家庭科、技術・家庭科（家庭分野）

- ① 今後の授業時数を確認する
- ② 育成を目指す資質・能力や指導事項を確認するとともに、感染症対策を踏まえて実施時期を調整したり、題材構成を見直したりするなど、指導方法等の工夫・改善が可能かどうか検討する。
- ③ 関連する指導事項の組合せを工夫し、学年間を見通した上で、配当授業時数や実施時期を調整する。

□ 技術・家庭科（技術分野）

- ① 今後の授業時数を確認する。
- ② 育成を目指す資質・能力を明確にし、どの観点を何で評価するのか、題材構成を見直し、配当授業時数の精選を行う。
- ③ 基礎的・基本的な技能については、模範の実演を撮影して、生徒が動画で繰り返し見られるようにすることで、指導の効率化を図る。
- ④ 部品加工の一部を工作機械で実施したり、仕上げを簡略化したりするなどして、配当授業時数の精選を行う。

□ 体育・保健体育科

- ① 今後の授業時数を確認する。
- ② 育成を目指す資質・能力の確認をする（育成を目指す資質・能力が重複する単位については、精選する）。
- ③ 配当時間数が多い単位は資質・能力の育成が可能な範囲で時間数を見直す。
- ④ 感染対策の必要に応じて単元の順序を入れ替える。

□ 道徳科

- ① 今後の授業時数を確認する。
- ② 休業期間中に配当していた内容項目が3月までにあるか確認する。ない場合は、他教科等との関連を確認した上で、その内容項目を移動する。
- ③ 7月から3月までにすべての内容項目を1回は扱っていることを確認する。
- ④ さらに時数がある場合は、各校の重点目標に関わる内容項目を中心に選ぶ。

□ 特別活動（学級活動）

- ① 今後の授業時数を確認する。
- ② 児童生徒の実態から育成を目指す資質・能力の確認をする。
- ③ 配当時間数の調整をする。
学級活動では、学級活動（2）（3）の内容を優先して配置する。学級活動（1）についても、育成を目指す資質・能力が育めるよう適切に実施する。

□ 総合的な学習の時間

- ① 今後の授業時数を確認する。
- ② 従来の年間指導計画を見直し、各小単元で育成を目指す資質・能力を確認する。
- ③ その中で、それぞれの資質・能力について、どの小単元で育成していくことがより効果的か判断し、小単元ごとに効率化を図れる部分を検討する。
- ④ 単元全体を見直し、従来の年間指導計画と同等の資質・能力の育成が期待できるか確認する。

◆ 複数年度にわたって教育課程を編成する場合のモデル案（配当時数、単元構成）を提示

※今年度中に調整を最大限行う中で、調整が難しい場合に限り特例が認められています。

年間指導計画再編成モデル案

<当初計画>

年度	令和2年度												令和3年度																																
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																					
当初計画	単元A			単元B			夏季休業			単元C			単元D			冬季休業			単元E			春季休業			単元F			単元G			夏季休業			単元H			単元I			冬季休業			単元J		

<モデルⅠ 令和元年度3月の補充を含めて、再開後順次時数を工夫しながら令和3年度末までに履修する>

年度	令和2年度												令和3年度																																			
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																								
モデルⅠ	休業			単元A + 補充			夏季休業			単元B			単元C			冬季休業			単元D			春季休業			単元E			単元F			単元G			夏季休業			単元H			単元I			冬季休業			単元J		

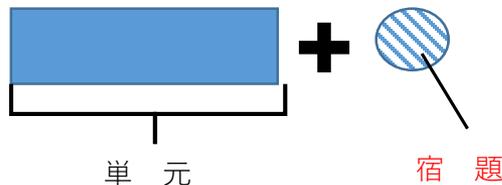
<モデルⅡ 指導内容が同じ領域のものや系統的に学べる単元を統合して単元構成をし、令和3年度末までに履修する>

年度	令和2年度												令和3年度																																
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																					
モデルⅡ	休業			単元A + 前年度の確認			夏季休業			単元C			単元D			冬季休業			単元E			春季休業			単元F			単元B + 単元G			夏季休業			単元H			単元I			冬季休業			単元J		

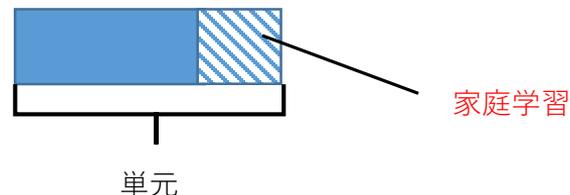
A 小学校の例

A 小学校としての家庭学習の考え方を共通理解して「学習の保障」に臨んでいる。

【宿題の考え方】



【家庭学習の考え方】



1. 「家庭学習」の意義

- 学びの習慣化や学習内容の習熟・定着を図ってきたこれまでの「宿題」から、家庭での学びを単元やカリキュラムの一部として取り入れる「家庭学習」が必要となっている。
- 「家庭学習」について共通認識を持ち、今後のカリキュラムをマネジメントしていくことが必要。

2. 家庭学習のポイント～大切にしたいこと～

(1) 単元の中に意図的に織り込む

- 学校での学習は集団での学習（対話的・体験的な学習）を重視。家庭学習は一人ひとりが取り組む個別の学習を行う。
- 単元の中でのつながりを意識する。家庭学習が単元の中でどのように位置付けられるのか、単元全体を見通した計画が必要。



(2) 共有化を図る

- 学年会で単元構成や家庭学習の位置付け、学習のねらい、支援の仕方を確認し、学年内で温度差が出ないようにする。
- 家庭学習の目的や学習のねらいについて、児童と共有化する。
- 学年通信や電話連絡、家庭訪問などで家庭学習の意義や支援の仕方を伝え、保護者と共通認識のもと、協力して家庭学習を進めていく。

(3) 支援の仕方

- 児童の実態に応じて、家庭訪問や電話連絡、個別指導などを通して、学習する時間や場所、使うもの、手立ての仕方などを支援していくことが必要。



F市教育委員会・B中学校の事例

【感染予防に配慮した学習活動の充実】

※令和2年6月時点の取組状況です

 教育課程の実施
(5月15日通知2(1))

➤ **ポイント** 感染予防に配慮した学習活動の充実に向けた取組を推進



F市教育委員会の例

➤ 新しい生活様式の下での授業アイデアを教育委員会内で検討し、教師向けにQA形式でまとめたリーフレットを提示。

Q 児童生徒の意見を確かめたいけど、一度に大勢が発言するのは避けたい。



A 付箋を活用し、自分の考えを記入し、それを班で回して読むことで友達の様々な考えに気付くことができ、対面で友達と交流するのと同じ効果が期待できます。

A 例えば、ハンドサインや意思表示カードなどを使うと…!

児童生徒の達成状況や賛成・反対などを集約するのに有効です。「用意したカードの色」、「グーチョキパー」などで選択肢を提示できますね。



Q 児童生徒に話し合いをさせたいのだけれども、どうしても一人一人距離が密になってしまう…。

Q 児童生徒の近くを回りながら机間指導したり、全体で考えを広げたり、深めたりしたいけど、その時にどんな方法があるのかな？

A 机間指導には指示棒を使用するなど、顔を近づけなくてもよい工夫をしましょう。その場での対応が難しい場合でも振り返りのワークシートに質問ができるようにしたり、学習状況が把握できるようにしましょう。

生徒が自ら主体的に考える機会を教育課程全体で意図的に設定。

- B中学校の生活目標～けじめのある生活を～（「B中学校 生活指導だより」より）
 1. 基本的生活習慣の育成
 2. 意欲的な生活態度の育成
 3. 正しい判断力と行動力を身に付けさせる

…以上の内容が、B中学校の生活目標です。今年度は主体性の育成に主眼を置いた教育活動を行ってまいります。委員会活動、運動会などの行事で生徒の考えを生かした取組を行ってまいります。限られた学校生活をいかに有効に使うか生徒とともに考えていきます。

➤ 学校行事（運動会）

感染防止に配慮した運動会の種目を生徒が検討・提案

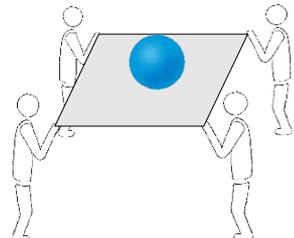
運動会実施に向けてコロナ対策をした新種目のアイデアを生徒に募集

【教師が提示した条件】

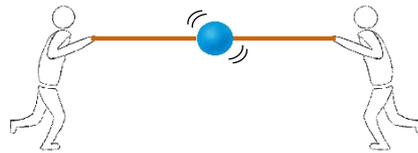
- ・人と人との間が1～2m空いていること（密にならないこと）
- ・勝ち負けがはっきりすること（競技性があること）
- ・道具が必要な競技の場合は、使用する道具が学校にありそうなこと
- ・1チーム20名程度を想定すること
（20名を小グループに分けてもよい、例えば4人1組とし、計5組に分けるなど）

【生徒が提案した種目】

- ・三密防いでボール運び
- ・ソーシャルディスタンスリレー
- ・宅配便リレー 等



三密防いでボール運び
☆ボールを落とさずにゴールまで運ぶ



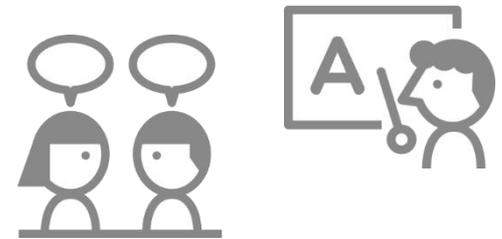
ソーシャルディスタンスリレー
☆棒でボールを挟み、落とさずにゴールまで運ぶ

➤ 教科の授業

主体的に学ぶ機会を重視

【指導上の工夫】

- ・ ノート交換により相手の意見を見る
- ・ ささやくように話すなどの話し方の工夫
- ・ 班別に意見交換する場面を設定
- ・ 体育館等で歌唱指導などソーシャル・ディスタンスを配慮した指導場面の設定



今後、運動会実行委員会で話し合いを重ね新種目を決定する予定

A県教育委員会、B義務教育学校、C・D高等学校の事例 【ICTを活用した学習保障に向けた取組】

 教育課程の実施
(5月15日通知2(1))

➤ **ポイント** **臨時休業に備えICTを活用した学習支援に取り組む際の教育課程の編成・実施に係るポイントを押さえた取組を推進。**

A県教育委員会の例

所管の高等学校の参考にICTを活用した学習支援に取り組む際の手順や留意点を提示。

【通知の章立て】

- 1 オンライン学習の定義
- 2 オンライン学習の手法及び内容
- 3 事前の環境整備
- 4 実施に向けた準備
- 5 校内で整理すべき事項



Point

オンラインを活用した学習で取り扱う**学習内容について**、

- ・ **年間指導計画や時間割などの諸計画における位置付け**
- ・ **指導方法や学習評価の取扱い**

など、**教育課程の編成・実施にかかわる基礎的な事項**を押さえて示している。

3 事前の環境整備

- (1)学校内の状況確認（配信用機材や生徒用タブレット等の台数、校内のWi-Fi環境）
- (2)生徒の状況確認（家庭での受信用機材の保有状況、Wi-Fi等の状況）
- (3)施設課への申請等（会議システム利用に際してのアカウント数の申請）
- (4)教員間での試験的ミーティングの実施（アプリのダウンロード、配信・受信確認）
- (5)教員間でのオンライン授業の試行

4 実施に向けた準備事項

- (1)オンライン**学習の内容**決定
- (2)機材の**使用方法**等についての校内研修
- (3)生徒向け説明書作成とその周知
- (4)家庭で受信用機材、Wi-Fi環境が整備できない生徒に対する機材の貸与
- (5)オンライン**学習の時間割**作成

5 校内で整理すべき事項

- (1)生徒の参加状況の確認方法と不参加生徒に対するフォローの在り方
- (2)授業実施における著作権法への留意
- (3)動画配信における個人情報への留意
- (4)**年間指導計画の見直しとオンライン学習の位置付け**
- (5)**評価方法の見直し（定期考査の回数、休業中の課題の取扱いなど）**
- (6)機材等の調達が間に合っていない生徒への対応(感染防止対策に留意した上で少人数での学校施設の利用 等)

B 義務教育学校の例

※既に一人一台のタブレット端末が整備されていた学校の取組。

➤ 休業期間中からの段階的なオンライン学習の導入と、学校再開後の継続的な活用の取組

➤ オンラインでの学習実施に際しての工夫 ～段階的な導入と、学習状況の把握～

～オンライン学習の段階的な導入～

【3月】

(第1・2週)

- ・ 家庭のWi-Fi環境の確認 (2月に実施)
ポケットWi-Fiの貸出
- ・ ICT支援員と相談しオンライン学習で用いるアプリケーションを決定、説明書を家庭に配布

(第3・4週)

- ・ 第3週は朝の会、第4週から1日2コマのオンライン学習を段階的に実施

【4月～5月】

- ・ 3月の取組を踏まえ1～4年生は1日4コマ、5～9年生は1日5コマのオンライン学習を実施

～休業期間中の学習状況の把握～

以下の取組を実施

- ・ オンライン中のノートを撮影し投稿
- ・ 出題した問題への回答
- ・ 単元テストの実施
- ・ 学校再開時における定期テストの実施



➤ 学校再開後のオンラインの活用 ～教育課程内外での活用～

学校再開後も教育課程内外の活動でオンラインを活用

- ・ 全校集会や生徒会の話し合いでの活用
- ・ 総合的な学習の時間での調べ学習や地域の人とのやりとりでの活用。
- ・ 生徒の発案による夜間の生徒相互の学習会(自習)での活用

➤ オンライン学習を経験した生徒の感想など

○オンライン学習への生徒のかかわりや感想は次のとおり

- ・ 学習委員を務める第9学年の生徒がオンライン学習のルールを作成するなど、教師と生徒と共が学習環境の整備に取り組んだ。
- ・ 対面ではないため、ノートを取るスピードや授業のスピードが合わなかった。
- ・ チャット機能があり授業より教師に質問しやすい。
- ・ 画面を見るのは疲れるため、休憩時に外を見たり、糖分をとったり、体操をしたりするなど、できるだけ画面から離れる工夫をした。

C 高等学校の例

➤ 動画配信と分散登校を組み合わせた臨時休業中の取組を学校再開後の指導につなげる取組

○校内に「オンライン学習」のチームを立ち上げ

・ 動画の作成方法を校内研修で共有

・ 2週間で**550**程度の動画作成・ネット掲載

生徒の見やすさを想定し、動画は15分以内の短い時間で作成。

新生徒には、教科のガイダンス、予習の仕方、学習の進め方などの動画を作成。

○連絡日（分散登校）の機会を用いて生徒に連絡

- ・ 動画のURL、パスワードの共有
- ・ 端末やWi-Fiの調査を実施
- ・ 分散登校時の補習を実施



環境が整っていない生徒にはDVDを学年所属の教師が届けた。

○学校再開後の状況

- ・ 学習状況を把握し、補習等の措置を講じる
- ・ 中間考査は実施せず学期末の考査を実施。

継続的な単元テストを実施し結果のフィードバックに取り組んだ。

さあ 授業を撮影してみましょう♪

事前確認

- 著作権の問題上、教科書名を発言したり教科書をうつしたりしないでください。
- 生徒の持っている教材に対する解説を作成して下さい。(課題のポイント解説や予習を促す動画等)
- 1.5分以内で作成をお願いします。



お手軽

こだわり

スタイル① 普段通りの授業を録画

iPad・iPhone・スマートフォンの動画撮影機能(カメラ)・ビデオカメラで録画します。

● メリット

普段と同じように授業ができます！

チョーク&トーク！

スライドなどの事前準備が不要です。

● ポイント

黒板全面は入らないので、事前にどれくらいの幅を使えるか確認しましょう。

撮影の際に、インカメラを使うことでどのように録画されているか、確認できます。



スタイル② 手元で説明しながら録画

iPad・iPhone・スマートフォンの動画撮影機能(カメラ)で録画します。

● メリット

顔を出さずに授業ができます！

白い紙とペンの準備でオッケー。

● ポイント

上から撮影することになるので、何か工夫が必要です。

手元に影がでやすいため、光の加減にご注意を！



スタイル③ 画面の動きを録画しながら声を吹き込む

iPadのスクリーンキャスト機能やPowerPointの画面録画機能を使用します。

● メリット

細かい説明や、本文に書き込みながら説明をしたいときには便利です！

オリジナルの工夫ができます♪

● ポイント

書き込みをするためには、別途メモアプリなどが必要です。(iPad)

iPhoneだと画面が小さすぎるかもしれません。PowerPointの機能を使用する場合は、マイクを準備する必要があります。



動画を撮影したら・・・アップロード係に提出♪

ケーブルを繋いで、校務PCに取り込み、共有一年度共通一配信動画(一時保管用)に保存。

何本かの動画に分かれている場合、ファイル名に①・②などを明記してください。

難しい場合は、アップロード担当者に機器を持ってきてください♪

